

## (臨床研究に関するお知らせ)

### 和歌山県立医科大学附属病院循環器内科に、急性心筋梗塞で通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学循環器内科講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

#### 1. 研究課題名

冠動脈間塞栓による ST 上昇型心筋梗塞の特徴、頻度、予後（光干渉断層像(OCT)による後ろ向き観察研究）

#### 2. 研究責任者

和歌山県立医科大学循環器内科学講座 教授 赤坂 隆史

#### 3. 研究の目的

ST 上昇型心筋梗塞を含む急性冠症候群(ACS)は、心臓に血液を送る血管である冠動脈内の血栓形成が主な原因となります。以前の病理学や OCT の研究では、ACS を引き起こす主要なメカニズムは動脈硬化破裂、動脈硬化びらん、石灰化結節があると言われています。また、冠動脈塞栓は 1) 直接型、2) 奇異性、3) 医原性に分けられます。具体的には左心耳からが最も頻度が高く(58%)、次に左室内からの血栓(25%)、続いて大動脈もしくは僧帽弁からの血栓(15%)ですが、冠動脈近位部からの塞栓は稀であります。今回、我々は冠動脈近位部の動脈硬化破裂で形成された血栓が遠位部へ遊走し塞栓を生じる病態を冠動脈間塞栓(AAEMI)と名付けました。また、OCT は高解像度の(10-20 $\mu$ m)イメージングモダリティであり、血管内腔表面の微小構造物を血管全長にわたり評価することが可能です。そこで OCT を用いて AAEMI の頻度、特徴、予後の研究を行います。

#### 4. 研究の概要

##### (1) 対象となる患者さん

ST 上昇型心筋梗塞の患者さんで、2014年5月1日から2018年4月30日までの期間中に、カテーテル治療を行なった患者さん

##### (2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、該当患者さんの電子カルテ上のデータ、OCT 画像データ、カテーテル画像データです。

##### (3) 方法

ST 上昇型心筋梗塞の患者さんを4つのグループに分類し、それぞれのグループの患者さんの OCT 画像および予後を調査します。また、それぞれのグループで OCT 画像の違いや予後調査し、グループ間で差があるか、統計学的に検討します。

## 5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

## 6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

## 7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学循環器内科学講座 担当医師 高畑 昌弘

TEL : 073-441-0621 FAX : 073-446-0631

E-mail : takahata@wakayama-med.ac.jp